



Society5.0の世界

今週に入り、特に朝晩は秋の気配を感じられる季節となりました。猛暑の夏がやっと過ぎたという安堵感を感じているのは私だけではないでしょう。さあ、ここからが秋本番。勉強の秋、読書の秋、スポーツの秋を子どもたちに実践してもらおうと思います。

さて、7月に配布いたしました「タブレットの持ち帰りに関するアンケートのお願い」のプリントにも取り上げました「Society5.0」について、ここで少し詳しくお話をしたいと思います。Societyとは、“社会”という意味で、人間のこれまでの社会、及びこれからの社会の変化を「Society1.0」～「Society5.0」として、日本の政府が示したものです。「Society1.0」は狩猟社会、「Society2.0」は農耕社会、「Society3.0」は工業社会、「Society4.0」は情報社会としていて、現在は「Society4.0」の社会の中にあるということになります。

それでは、次の社会「Society5.0」というと、「仮想空間と現実社会が高度に融合した社会。高度な人工知能が人間社会の要になっている時代。」であると示されています。この言葉だけではイメージがもてないかと思しますので少し説明します。

今年に入ってから話題になっている「ChatGPT」はその具体的な例です。現在はインターネットのクラウド上にバラバラに存在している情報を、AIの技術を用いて、必要とする情報と情報を連携させ、人からの質問に適切に答えるというシステムです。このようなシステムが進化すると、自動車等の自動運転が可能となったり、どの時間、どの場所でも配達が可能となる流通網が整備されたり、これまで人間が解けなかった「地球温暖化」「エネルギー問題」「少子高齢化」など、実に様々な社会問題を解決に導いてくれる可能性があります。これまで、人間が頭の中で考えていたことを、人工知能AIが代わりに、しかも高度に処理をしてくれることとなります。「4.0」から「5.0」の変化は「1.0」から「2.0」いわゆる狩猟社会から農耕社会へと変化したのと同じくらいの変化があります。

子どもたちの生きる未来は、「Society5.0」の社会であると言われていています。それだけ、これからの社会の変化は猛スピードで変わっていくと予想されています。だからこそ、学校においてICTの活用能力を子どもたちに身に付けさせることが急務となっているのです。文部科学省が推進している「GIGAスクール構想」は、この「Society5.0」の考え方が基になっています。

多西小学校でも、一人一台配付されたタブレット端末を有効に活用し、子どもたちに情報活用能力を育成していきます。ただし、新たに始まった取組なので、学校にこれまで蓄積されたノウハウがあるわけではありません。定期的に先生方も研修を行いながら、指導のスキルアップを目指して日々努力をしているところです。10月よりタブレットの持ち帰りを実施いたしますが、情報モラル、リテラシーについても、保護者の皆様も一緒に子どもたちを指導していただくことが不可欠です。2学期より、裏面にICT関連の記事を掲載しておりますので、ぜひご一読いただき、理解を深めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

担当の変更についてのお知らせ

- ・理科を担当していた大和田未来教諭が他校にて臨時的任用教員として任用されるため、9月末をもって本校の時間講師を退職することとなりました。後任については決まり次第ご連絡いたします